

# 調査結果の概要

## I 発育状態

### 1 平均体格

平成19年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒及び幼児の身長、体重、座高の平均を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

#### (1) 身長 (表1, 図1, 図2)

男子の身長(平均値。以下同じ)は、5歳、9歳、12歳、15歳、16歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。各年齢間の身長差が最も大きいのは、11歳～12歳の7.9cmとなっている。

調査開始した昭和23年以降でみると、9歳、12歳、15歳で過去最高値となっている。

女子の身長は、5歳、6歳、9歳～12歳、14歳、15歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。

各年齢間の身長差が最も大きいのは9歳～10歳の7.6cmとなっている。

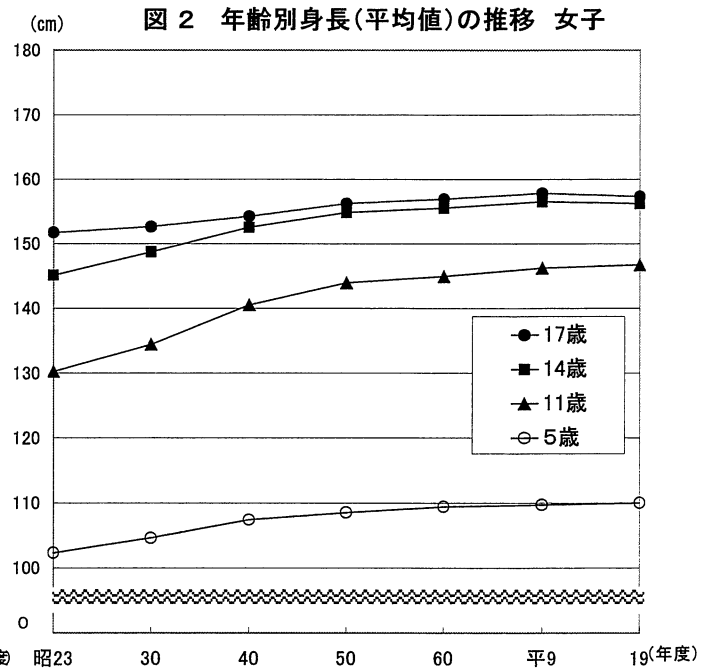
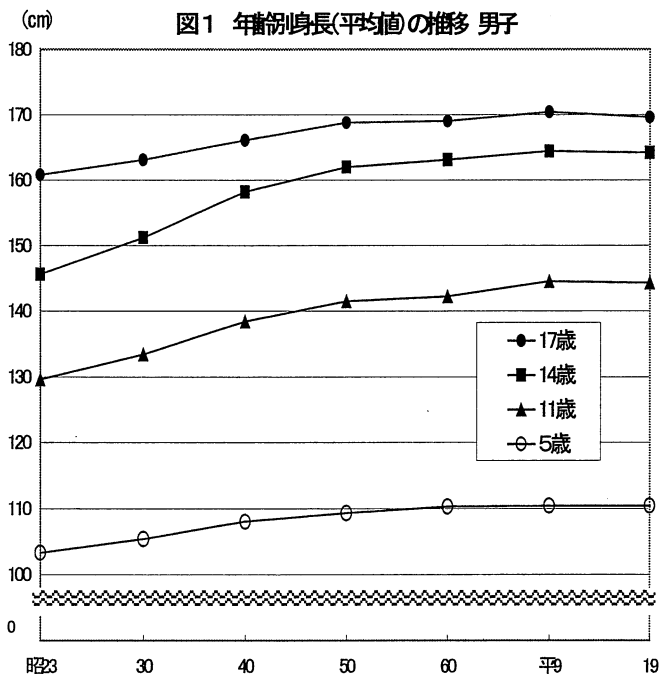
調査開始した昭和23年以降でみると、10歳、11歳で過去最高値となっている。

表1 男女別年齢別 身長(平均値)

(単位: cm)

男女・年度	幼稚園	小学校							中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	19年度	110.4	116.0	121.6	127.4	<u>133.7</u>	138.1	144.3	<u>152.2</u>	158.8	164.2	<u>168.1</u>	169.5	169.6
	18年度	110.3	116.4	122.1	127.4	133.0	138.9	144.4	151.8	159.5	164.4	167.3	168.8	169.8
	差	0.1	△0.4	△0.5	0.0	0.7	△0.8	△0.1	0.4	△0.7	△0.2	0.8	0.7	△0.2
女子	19年度	110.0	115.4	121.0	126.4	132.9	<u>140.5</u>	<u>146.7</u>	151.3	154.4	156.2	156.8	156.7	157.3
	18年度	109.4	115.2	121.4	126.8	132.6	139.4	146.4	151.2	154.8	156.0	156.6	157.5	157.3
	差	0.6	0.2	△0.4	△0.4	0.3	1.1	0.3	0.1	△0.4	0.2	0.2	△0.8	0.0

(注) 下線部は、調査実施以来の過去最高を示す。



(2) 体重 (表2, 図3, 図4)

男子の体重(平均値。以下同じ)は、9歳、15歳、16歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の体重差が最も大きいのは、11歳~12歳の6.5kgとなっている。

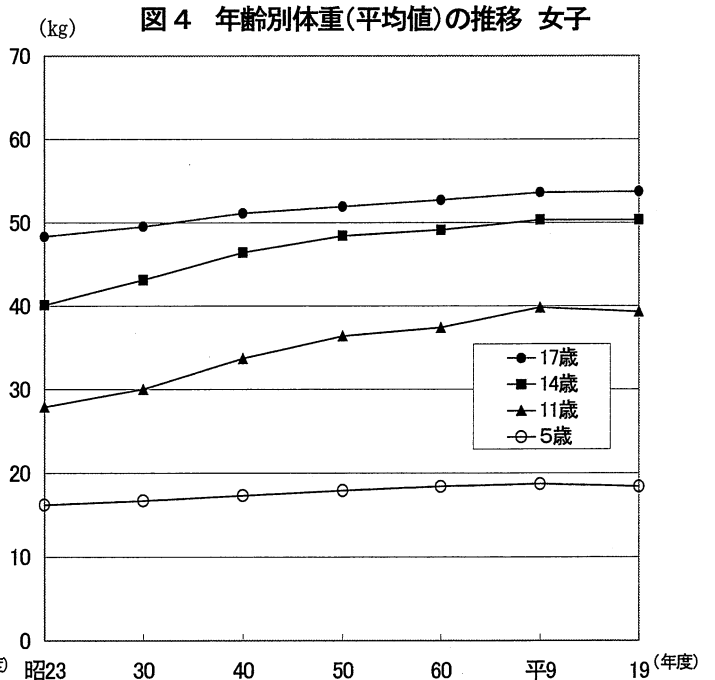
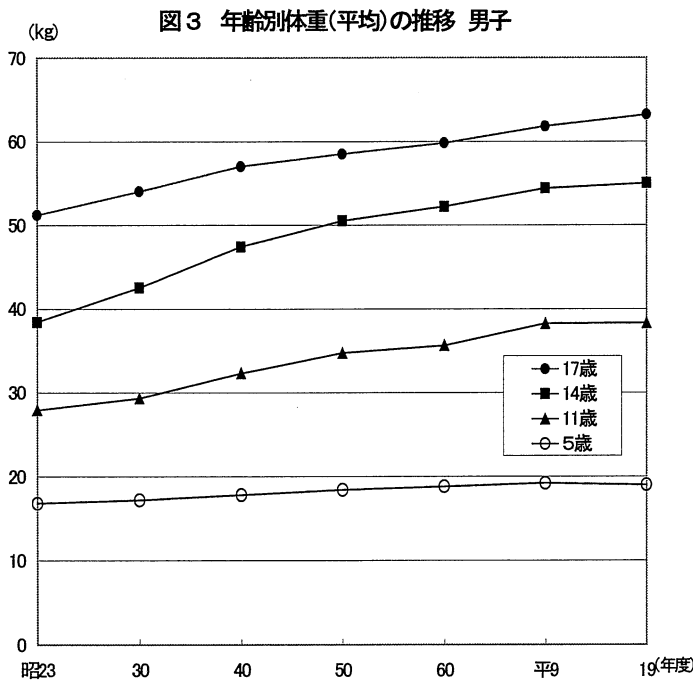
女子の体重は、5歳、10歳、11歳、15歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。

各年齢間の体重差が最も大きいのは、9歳~10歳の5.2kgとなっている。

表2 男女別年齢別 体重(平均値)

(単位:kg)

男女・年度		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	19年度	19.0	21.1	23.8	27.0	31.0	33.4	37.6	44.1	48.3	53.6	59.5	61.1	62.1
	18年度	19.0	21.1	24.2	27.0	30.1	34.3	38.3	44.4	50.0	55.0	59.4	60.8	63.2
	差	0.0	0.0	△0.4	0.0	0.9	△0.9	△0.7	△0.3	△1.7	△1.4	0.1	0.3	△1.1
女子	19年度	18.7	20.6	23.2	25.9	29.3	34.5	39.5	44.1	47.5	49.5	51.8	51.7	52.7
	18年度	18.4	20.7	23.7	26.5	29.4	33.9	39.3	44.4	47.8	50.3	51.4	53.2	53.7
	差	0.3	△0.1	△0.5	△0.6	△0.1	0.6	0.2	△0.3	△0.3	△0.8	0.4	△1.5	△1.0



(3) 座高 (表3, 図5, 図6)

男子の座高(平均値。以下同じ)は、9歳、12歳、15歳、16歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。各年齢間の座高差が最も大きいのは、11歳～12歳の3.9cmとなっている。

調査開始した昭和23年以降でみると、12歳、15歳、16歳で過去最高値となっている。

女子の座高は、9歳～11歳、13歳、15歳の各年齢で前年度の同年齢よりも増加している。

各年齢間の座高差が最も大きいのは、9歳～10歳の3.6cmとなっている。

調査開始した昭和23年以降でみると、11歳で過去最高値となっている。

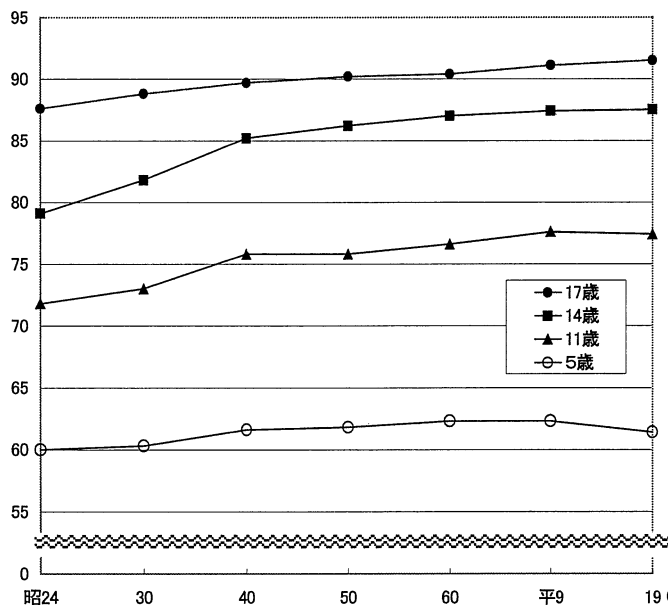
表3 男女別年齢別 座高(平均値)

(単位: cm)

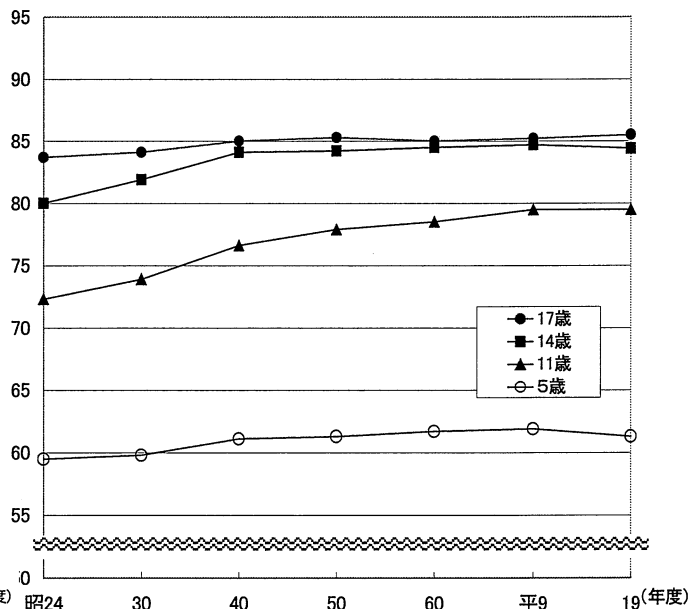
男女・年度		幼稚園		小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男子	19年度	61.4	64.5	67.2	70.0	72.9	74.7	77.4	<u>81.3</u>	84.4	87.5	<u>90.0</u>	<u>91.1</u>	91.5	
	18年度	61.9	64.8	67.5	70.1	72.4	75.2	77.6	81.1	84.9	87.7	89.9	90.8	91.6	
	差	△0.5	△0.3	△0.3	△0.1	0.5	△0.5	△0.2	0.2	△0.5	△0.2	0.1	0.3	△0.1	
女子	19年度	61.3	64.3	67.2	69.5	72.5	76.1	<u>79.5</u>	81.9	83.8	84.4	85.5	85.3	85.5	
	18年度	61.4	64.3	67.3	69.8	72.4	75.8	79.3	82.0	83.7	84.7	85.2	85.8	85.6	
	差	△0.1	0.0	△0.1	△0.3	0.1	0.3	0.2	△0.1	0.1	△0.3	0.3	△0.5	△0.1	

(注) 下線部は、調査実施以来の過去最高を示す。

(cm) 図5 年齢別座高(平均)の推移 男子



(cm) 図6 年齢別座高(平均)の推移 女子



## 2 親世代の体格との比較 (表4)

平成19年度と親の世代である31年前の昭和51年度の体格を比較してみると、男子5歳の座高を除き、身長、体重、座高、すべてにおいて平成19年度で向上している。

男子の身長をみると、最も差があるのは、12歳で、親の世代より3.4cm高くなっている。体重は、15歳で4.0kg重くなっている。座高は、12歳で1.9cm高くなっている。

女子の身長をみると、最も差があるのは、10歳で、親の世代より2.8cm高くなっている。体重は、11歳で2.6kg重くなっている。座高は、11歳で1.2cm高くなっている。

表4 親世代の体格との比較

男女・校種・年齢			身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
			平成 19年度	昭和 51年度	差	平成 19年度	昭和 51年度	差	平成 19年度	昭和 51年度	差
男 子	幼稚園	5歳	110.4	109.2	1.2	19.0	18.5	0.5	61.4	61.9	△0.5
		6歳	116.0	114.8	1.2	21.1	20.3	0.8	64.5	64.5	0.0
	小学校	7歳	121.6	120.3	1.3	23.8	22.7	1.1	67.2	67.1	0.1
		8歳	127.4	126.1	1.3	27.0	25.4	1.6	70.0	69.8	0.2
		9歳	133.7	131.0	2.7	31.0	28.1	2.9	72.9	71.8	1.1
		10歳	138.1	136.4	1.7	33.4	31.6	1.8	74.7	74.2	0.5
		11歳	144.3	141.3	3.0	37.6	34.5	3.1	77.4	76.2	1.2
	中学校	12歳	152.2	148.8	3.4	44.1	40.3	3.8	81.3	79.4	1.9
		13歳	158.8	156.5	2.3	48.3	45.9	2.4	84.4	83.3	1.1
		14歳	164.2	162.3	1.9	53.6	51.2	2.4	87.5	86.5	1.0
	高等学校	15歳	168.1	166.0	2.1	59.5	55.5	4.0	90.0	89.1	0.9
		16歳	169.5	167.6	1.9	61.1	57.2	3.9	91.1	89.9	1.2
		17歳	169.6	168.4	1.2	62.1	58.7	3.4	91.5	90.7	0.8
	女 子	幼稚園	5歳	110.0	108.5	1.5	18.7	18.1	0.6	61.3	61.3
6歳			115.4	114.1	1.3	20.6	20.0	0.6	64.3	64.2	0.1
小学校		7歳	121.0	120.0	1.0	23.2	22.4	0.8	67.2	66.8	0.4
		8歳	126.4	125.4	1.0	25.9	25.0	0.9	69.5	69.3	0.2
		9歳	132.9	130.7	2.2	29.3	27.9	1.4	72.5	71.7	0.8
		10歳	140.5	137.7	2.8	34.5	32.2	2.3	76.1	75.1	1.0
		11歳	146.7	144.2	2.5	39.5	36.9	2.6	79.5	78.3	1.2
中学校		12歳	151.3	149.6	1.7	44.1	41.8	2.3	81.9	81.0	0.9
		13歳	154.4	153.0	1.4	47.5	46.0	1.5	83.8	83.0	0.8
		14歳	156.2	154.8	1.4	49.5	49.0	0.5	84.4	84.1	0.3
高等学校		15歳	156.8	155.4	1.4	51.8	50.4	1.4	85.5	84.8	0.7
		16歳	156.7	155.6	1.1	51.7	51.5	0.2	85.3	84.9	0.4
		17歳	157.3	156.2	1.1	52.7	52.1	0.6	85.5	84.8	0.7

### 3 肥満傾向児の出現率 (表5)

平成19年度の肥満傾向児の出現率は、男子では9歳が最も高く、6歳で最も低く、女子は、11歳が最も高く、6歳で最も低い。

表5 年齢別 肥満傾向児の出現率 (単位：%)

校種・年齢		肥満傾向児の出現率(男子)		肥満傾向児の出現率(女子)	
		19年度	18年度	19年度	18年度
幼稚園	5歳	3.09	2.96	3.15	0.93
	6歳	2.69	2.99	2.36	3.50
小学校	7歳	6.21	5.83	3.92	5.17
	8歳	7.80	6.98	5.47	8.23
	9歳	12.14	7.91	7.62	6.91
	10歳	8.91	10.74	6.77	8.49
	11歳	10.04	12.27	11.94	9.76
中学校	12歳	12.01	15.17	11.92	11.47
	13歳	9.32	14.45	8.72	11.23
	14歳	10.01	12.39	7.57	10.39
高等学校	15歳	12.06	14.77	9.11	8.87
	16歳	8.04	9.40	4.88	9.39
	17歳	11.83	12.22	6.83	9.53

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。以下の各表において同じ。

算式は、次のとおりである。以下の各表において同じ。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

身長別標準体重は、次表の身長別標準体重を求める係数表のa,bと実測身長により求める。

$$\text{身長別標準体重 (キログラム)} = a \times \text{実測身長 (センチメートル)} - b$$

#### 身長別標準体重を求める係数表

年齢・係数	男子		女子	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)』平成18年

#### 4 痩身傾向児の出現率 (表6)

平成19年度の痩身傾向児の出現率は、男子では11歳が最も高く、5歳で最も低く、女子は、10歳が最も高く、5歳で最も低い。

表6 年齢別痩身傾向児の出現率

(単位：%)

校 種 ・ 年 齢		痩身傾向児の出現率(男子)		痩身傾向児の出現率(女子)	
		19年度	18年度	19年度	18年度
幼稚園	5歳	0.33	0.38	0.22	0.43
小学校	6歳	0.67	0.00	0.93	0.56
	7歳	0.74	0.41	0.94	0.34
	8歳	0.69	0.49	0.35	0.48
	9歳	1.30	1.58	2.11	1.68
	10歳	2.29	1.53	4.25	2.57
	11歳	2.54	1.60	1.91	2.54
中学校	12歳	2.10	1.73	2.50	1.85
	13歳	1.50	0.79	3.31	4.09
	14歳	1.91	1.37	2.68	2.48
高等学校	15歳	0.88	2.67	1.15	2.36
	16歳	0.56	1.24	3.12	0.62
	17歳	0.68	0.09	0.36	0.47

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。以下の各表において同じ。

## II 健康状態

### 1 主な疾病・異常の被患率 (表7)

平成19年度の定期健康診断における児童、生徒及び幼児の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」の者(処置歯完了者を含む。以下同じ)が1位となり、次いで「裸眼視力1.0未満の者」や「鼻・副鼻腔疾患」となっている。

表7 主な疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯(う歯)	45.4	むし歯(う歯)	61.9	むし歯(う歯)	47.6	むし歯(う歯)	57.2
2	鼻・副鼻腔疾患	5.8	裸眼視力1.0未満の者	25.9	裸眼視力1.0未満の者	36.9	鼻・副鼻腔疾患	8.5
3	眼の疾病・異常	3.2	鼻・副鼻腔疾患	11.4	鼻・副鼻腔疾患	9.8	歯肉の状態	6.5
4	歯列・咬合	2.7	眼の疾病・異常	6.6	歯肉の状態	5.8	歯垢の状態	5.6
5	アトピー性皮膚炎	2.6	ぜん息	4.3	眼の疾病・異常	5.3	歯列・咬合	3.7
6	ぜん息	2.3	歯列・咬合	4.1	歯列・咬合	5.1	眼の疾病・異常	3.5
7	口腔内傷痕疾患・異常	1.9	アトピー性皮膚炎	3.9	歯垢の状態	4.5	蛋白検出の者	2.9
8	耳疾患	1.3	耳疾患	3.5	アトピー性皮膚炎	4.0	アトピー性皮膚炎	2.5
9	心臓の疾患・異常	0.5	歯垢の状態	3.4	耳疾患	3.7	心電図異常	2.2
10	栄養状態・蛋白検出の者等	0.4	栄養状態	2.3	ぜん息	3.2	耳疾患	1.6

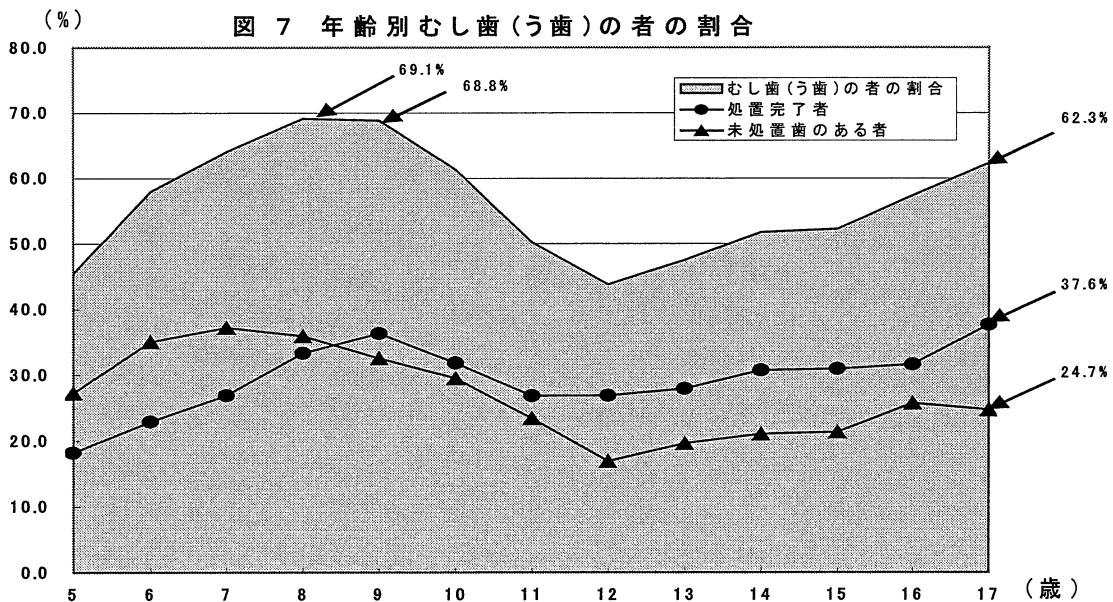
(注) 幼稚園・高等学校の「裸眼視力1.0未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

### 2 主な疾病・異常の状況

#### (1) むし歯(う歯) (図7)

平成19年度の「むし歯(う歯)」の者の割合は、幼稚園が45.4%、小学校61.9%、中学校47.6%、高等学校57.2%となっている。

「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると8歳が69.1%と最も高く、次いで9歳が68.8%となっている。また、処置完了者の割合は、9歳以降未処置歯のある者の割合を上回っている。



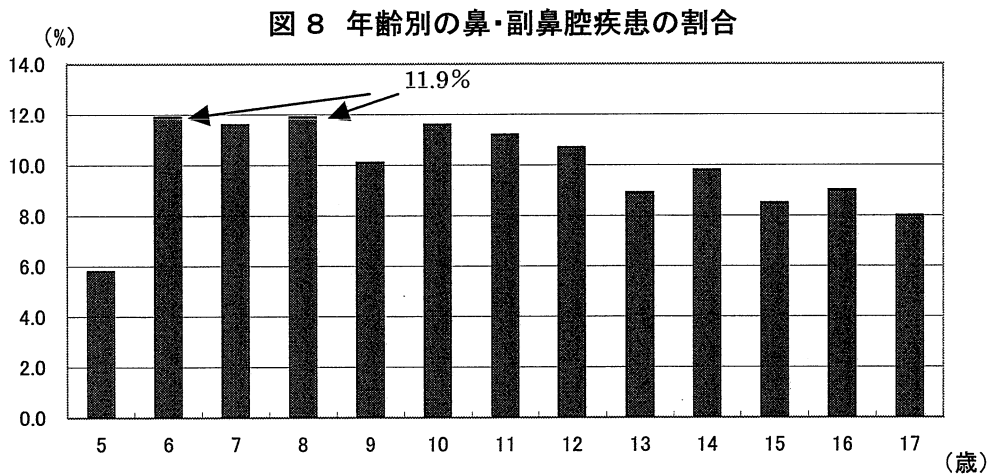
(2) 裸眼視力 1.0 未満の者

平成 19 年度の「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、小学校 25.9%、中学校 36.9% となっている。

(3) 鼻・副鼻腔疾患 (図 8)

慢性副鼻腔炎（蓄のう症）、慢性的症状の鼻炎及び花粉症等の鼻・副鼻腔疾患は、幼稚園では 5.8%、小学校 11.4%、中学校 9.8%、高等学校で 8.5%となっている。

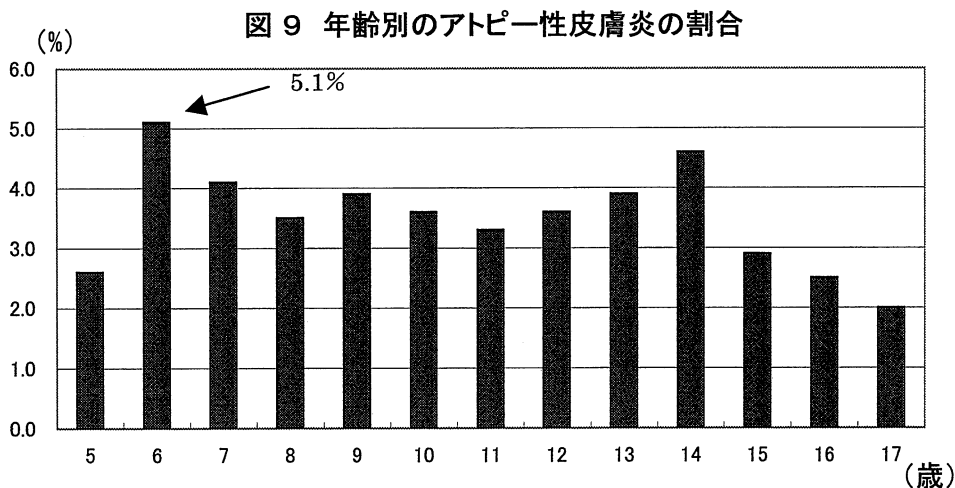
「鼻・副鼻腔疾患」の割合を年齢別でみると 6 歳、8 歳が 11.9%と小学校の低学年で高く、その後高学年につれて低くなる傾向となっている。



(4) アトピー性皮膚炎 (図 9)

平成 19 年度の「アトピー性皮膚炎」の割合は、幼稚園では 2.6%、小学校 3.9%、中学校 4.0%、高等学校で 2.5%となっている。

「アトピー性皮膚炎」の割合を年齢別にみると、6 歳の 5.1%が最も高く、7 歳～14 歳までは、4.0%前後であり、15 歳以上は 3.0%以下である。

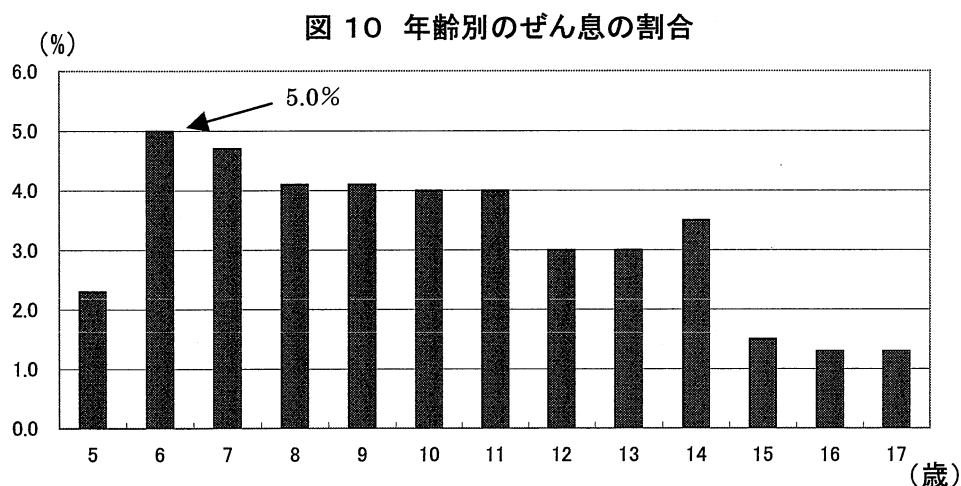




(5) ぜん息 (図10)

平成19年度の「ぜん息」の割合は、幼稚園では2.3%、小学校4.3%、中学校3.2%、高等学校で1.4%となっている。

「ぜん息」の割合を年齢別にみると、6歳の5.0%が最も高く、年齢が進むにつれて、低くなる傾向となっている。



3 主な疾病・異常の推移 (表8)

疾病・異常等の主なものについて、前年度からの推移をみると次のとおりであり、むし歯(う歯)については、幼稚園を除き、小学校、中学校、高等学校で低下している。

表8 主な疾病・異常等の推移

(単位: %)

検査項目	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	19年度	18年度	19年度	18年度	19年度	18年度	19年度	18年度
むし歯(う歯)	45.4	39.1	61.9	63.7	47.6	52.8	57.2	65.2
裸眼視力1.0未満の者	X	X	25.9	27.2	36.9	X	X	X
鼻・副鼻腔疾患	5.8	8.2	11.4	12.3	9.8	9.7	8.5	8.3
眼の疾病・異常	3.2	4.1	6.6	6.6	5.3	5.3	3.5	4.5
耳疾患	1.3	3.0	3.5	3.7	3.7	2.8	1.6	2.0
ぜん息	2.3	1.9	4.3	3.2	3.2	2.3	1.4	1.2
歯列咬合	2.7	0.5	4.1	4.3	5.1	4.6	3.7	4.2
心電図異常	...	...	2.1	2.3	3.1	3.4	2.2	4.8
アトピー性皮膚炎	2.6	4.0	3.9	4.6	4.0	3.1	2.5	2.4
蛋白検出の者	0.4	0.9	0.7	1.0	2.9	3.4	2.9	3.5
歯肉の状態	0.1	0.2	2.1	3.5	5.8	6.6	6.5	5.6
歯垢の状態	0.2	0.1	3.4	3.8	4.5	5.7	5.6	6.6
その他の皮膚疾患	0.4	1.6	0.5	0.4	0.2	0.2	0.1	0.3
口腔咽喉頭疾患・異常の者	1.9	0.8	1.7	1.3	0.3	0.6	0.2	0.4

### Ⅲ 全国値との比較

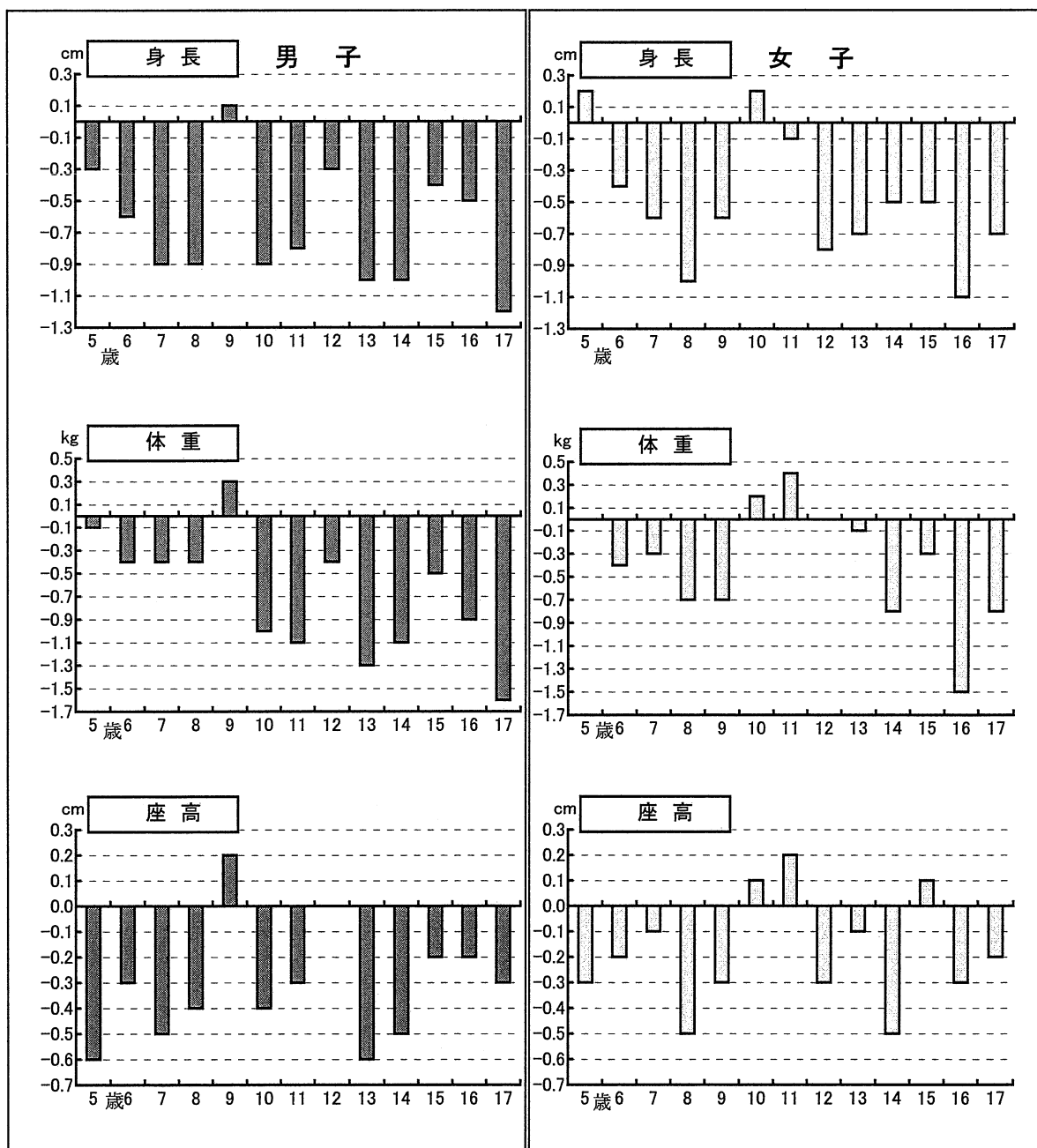
#### 1 発育状態

##### (1) 全国平均体格との差 (図11)

平成19年度の広島県平均値と全国平均値を比較してみると、身長・体重・座高ともにほぼ各年齢において全国平均値を下回っている。

図11 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値=0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表9)

17歳時(調査対象の最高年齢)の体格から、5歳時(調査対象の最小年齢)の体格を差し引いた総発育量は、男子は身長0.5cm、体重1.4kg、座高0.2cm全国平均値より下回っている。

女子は身長0.2cm、体重0.5kg、座高0.1cm全国平均値より下回っている。

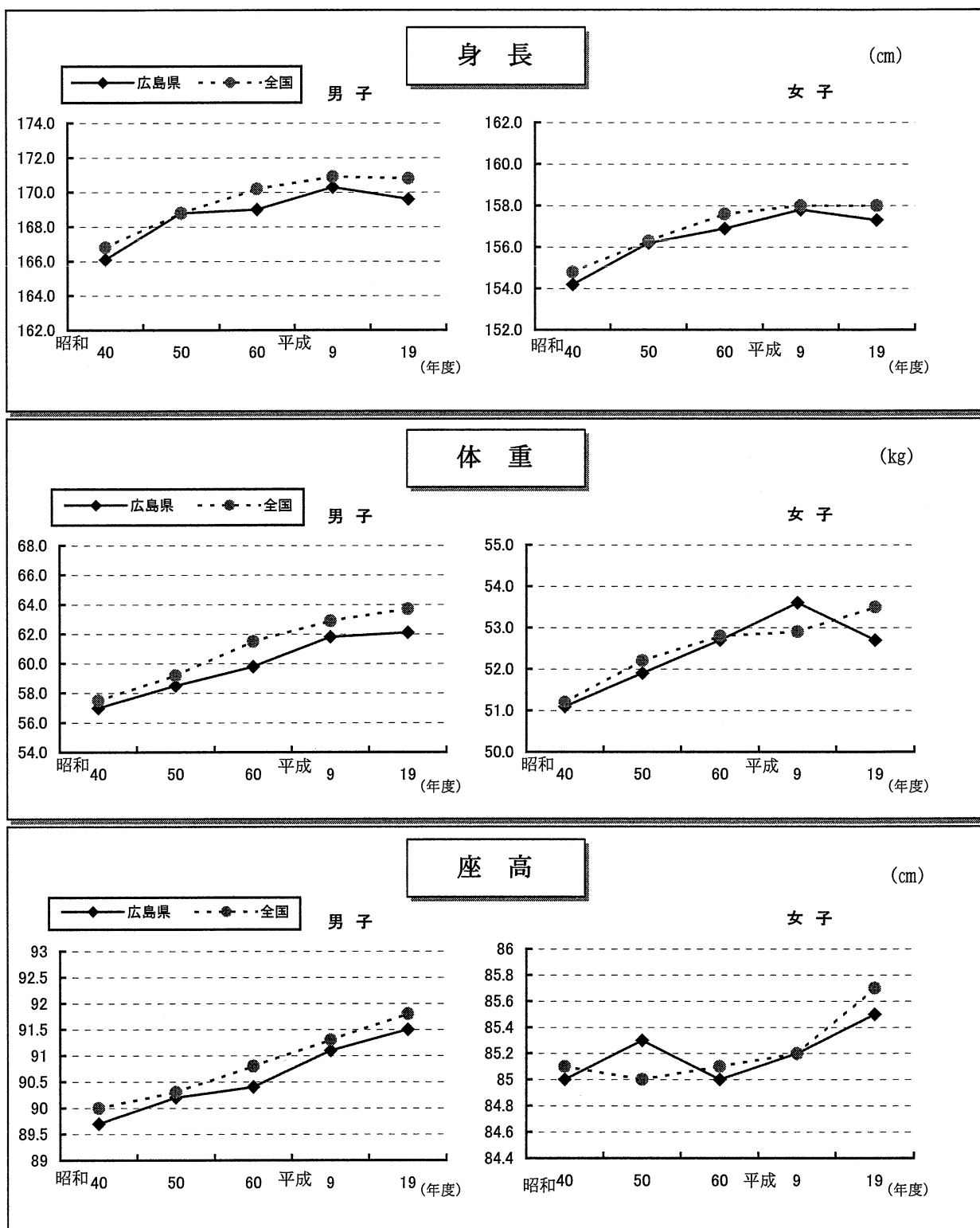
表9 男女別、総発育量の全国平均値との比較

広島県・全国		男子(平成元年度生まれ)			女子(平成元年度生まれ)		
		5歳時の体格 (平成7年度)	17歳時の体格 (平成19年度)	総発育量 B-A	5歳時の体格 (平成7年度)	17歳時の体格 (平成19年度)	総発育量 B-A
		A	B		A	B	
身長 cm	広島県	110.3	169.6	59.3	109.6	157.3	47.7
	全国	111.0	170.8	59.8	110.1	158.0	47.9
体重 kg	広島県	19.2	62.1	42.9	18.7	52.7	34.0
	全国	19.4	63.7	44.3	19.0	53.5	34.5
座高 cm	広島県	62.2	91.5	29.3	61.8	85.5	23.7
	全国	62.3	91.8	29.5	61.9	85.7	23.8

(3) 17歳男女平均値の推移 (図12)

17歳男女平均値を全国平均値と比較して推移をみると、女子の体重及び座高については全国平均値を上回っている時期があるが、男子の身長、体重、座高及び女子の身長は全国平均値を下回って推移している。

図12 17歳男女平均値の推移



(4) 肥満傾向児・痩身傾向児の全国出現率との比較

ア 肥満傾向児 (図13, 図14)

肥満傾向児について、年齢別に全国出現率と比較すると男子については、5歳、9歳において、女子については、5歳、11歳、12歳において上回っている。

図13 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (男子)

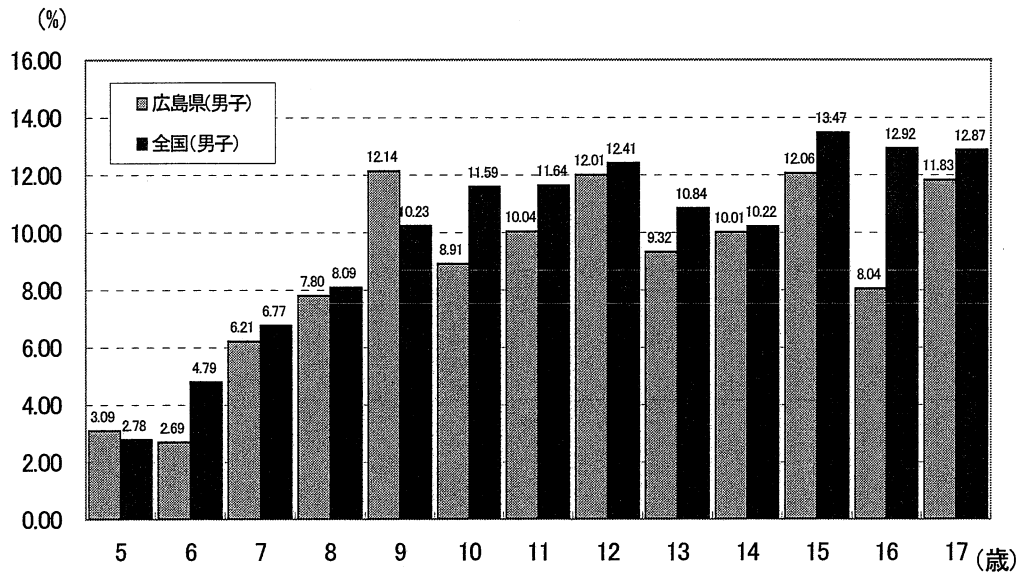
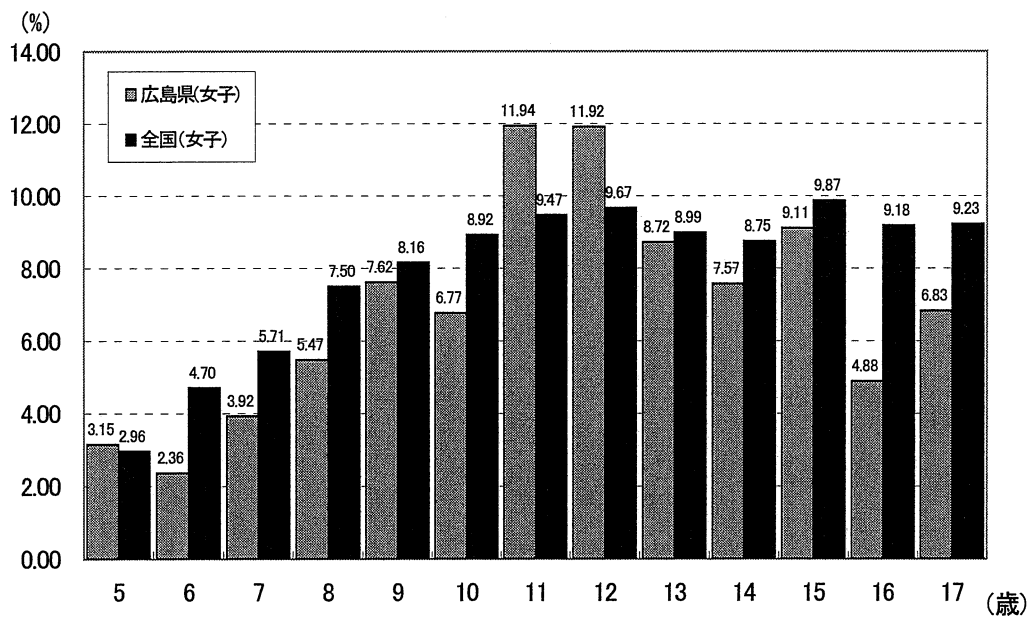


図14 年齢別肥満傾向児の全国出現率との比較 (女子)



イ 痩身傾向児 (図15, 図16)

年齢別に痩身傾向児の全国出現率と比較してみると、男子については、5歳～7歳、14歳において上回っているものの、総じて全国出現率より低い状況にある。

女子については、6歳、7歳、9歳、10歳、16歳で上回っているものの、それ以外の年齢では全国出現率より低い状況にある。

図15 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (男子)

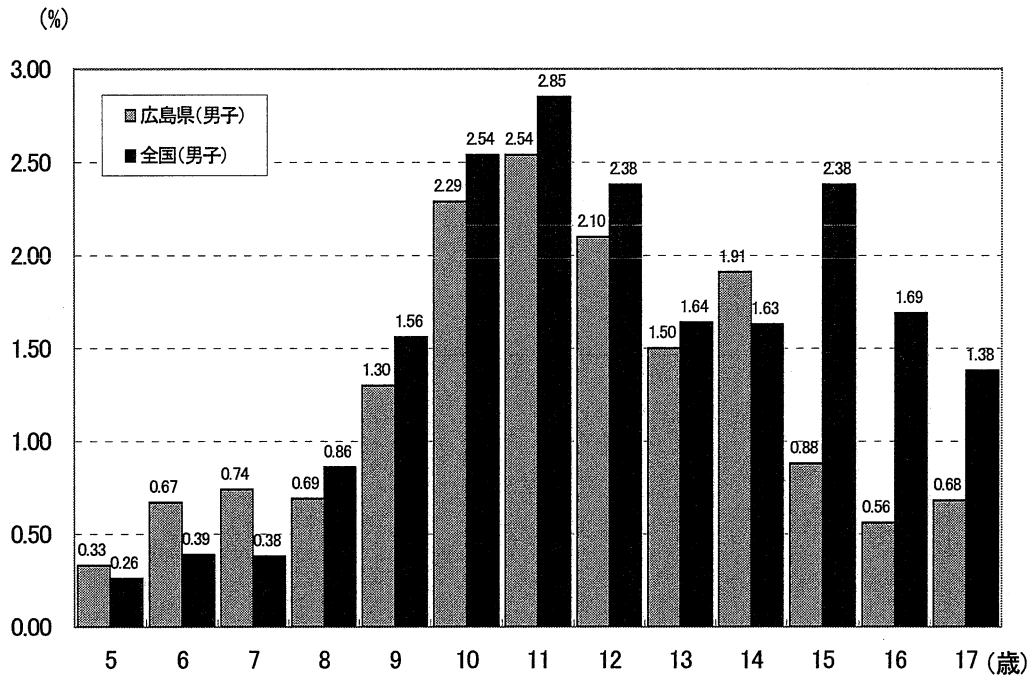
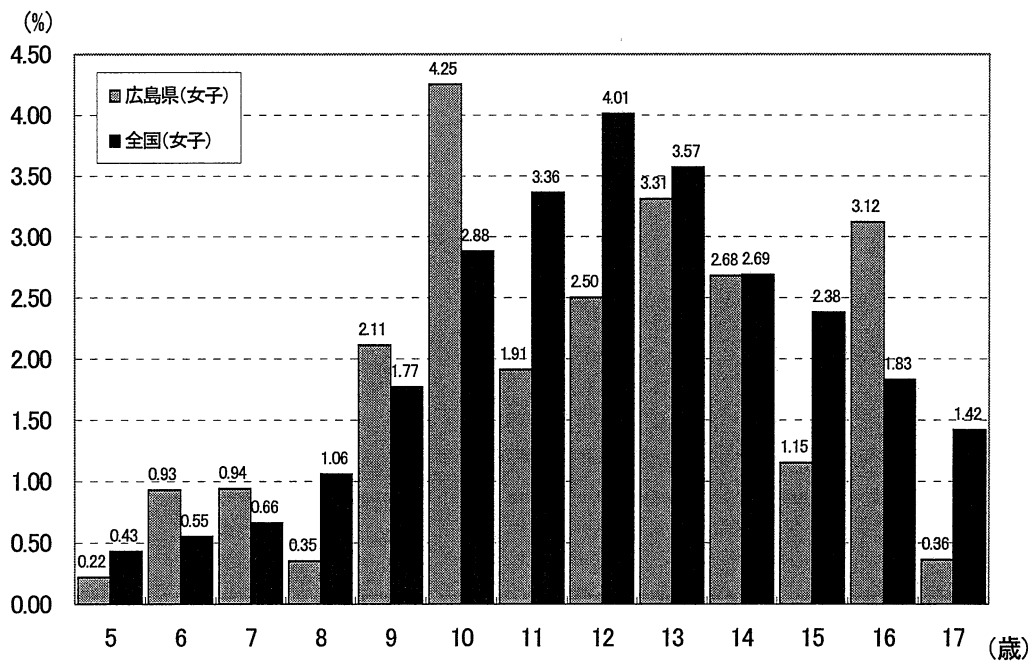


図16 年齢別痩身傾向児の全国出現率との比較 (女子)



## 2 健康状態 (図17, 図18, 図19, 図20, 図21)

主な疾病・異常の被患率について、全国と比較してみると「むし歯(う歯)」の者の割合は、各学校(園)ともに全国を下回っており、特に中学校及び高等学校において大きく下回っている。

「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は、小学校及び中学校において全国を下回っており、中学校では大きく下回っている。

「鼻・副鼻腔疾患」の被患率は、小学校及び中学校が全国を下回っている。

「アトピー性皮膚炎」の被患率は、幼稚園を除き小学校、中学校、高等学校において全国を上回っている。

「ぜん息」の被患率は、小学校及び中学校が全国より上回っており、高等学校は全国を下回っている。

図17 むし歯(う歯)の者の割合 (全国との比較)

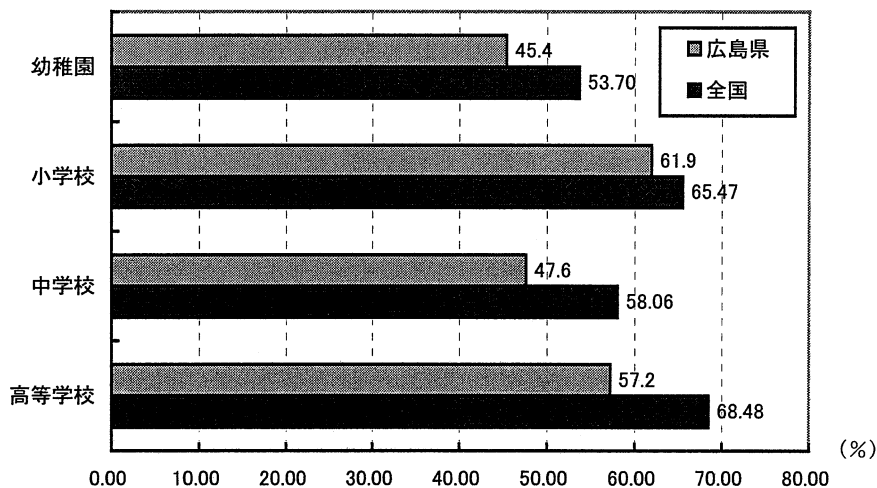
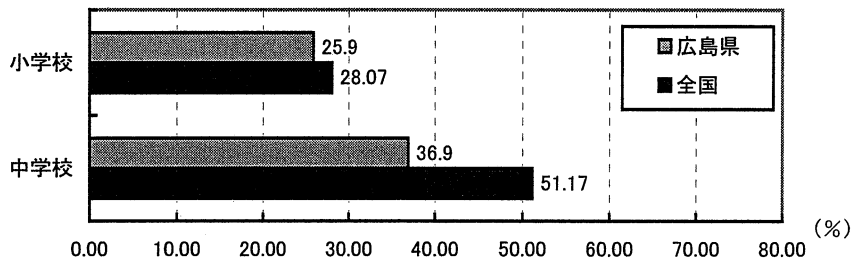


図18 裸眼視力 1.0 未満の者の割合 (全国との比較)



(注) 幼稚園・高等学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は、裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

図 19 鼻・副鼻腔疾患の被患率 (全国との比較)

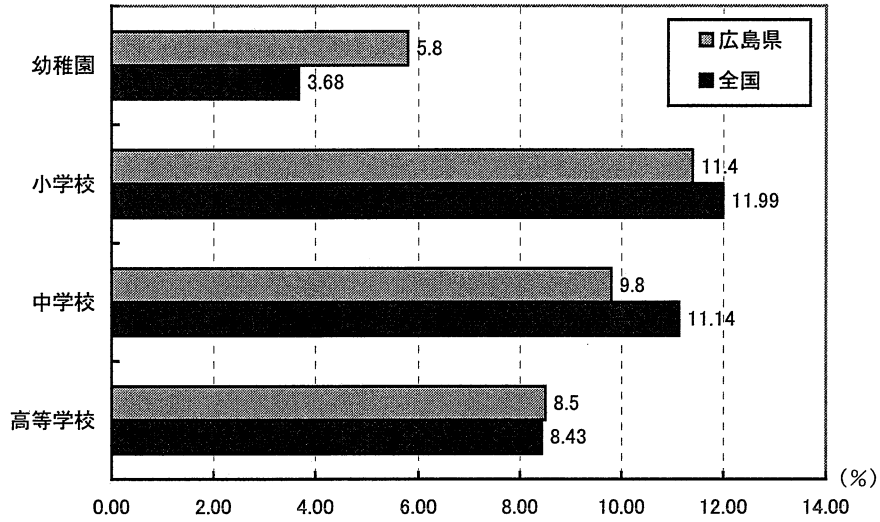


図 20 アトピー性皮膚炎の被患率 (全国との比較)

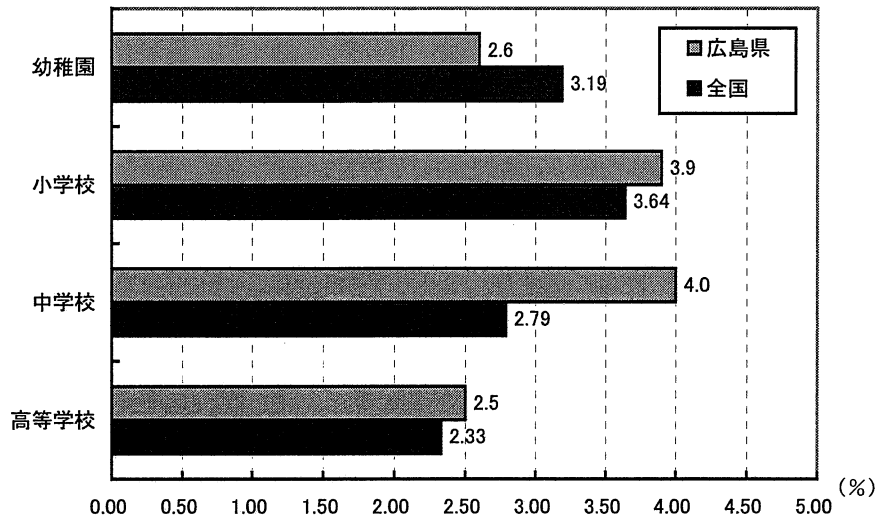


図 21 ぜん息の被患率 (全国との比較)

